観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月２４日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	株式会社デスティネーション十勝	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	北海道帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町	
所在地	北海道帯広市西 17 条北 2 丁目５６－１６	
設立時期	２０１７年４月５日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	７人【常勤１人（正職員０人・出向等１人）、非常勤６人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	林　克彦 （株）勝毎ホールディング 取締役社長	2009 年に「北海道ガーデン街道」を立ち上げるなど、十勝の観光に寄与。2017 年に株式会社北海道ホテル（現（株）勝毎ホールディングス）取締社長（現職）に就任。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	荒井　駆　※専従 （株）スノーピーク	2021 年（株）スノーピーク入社、会長室へ配属され、同年 6 月に（株）デスティネーション十勝へ出向。専務取締役就任。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	藤芳　雅人 帯広市経済部観光交流室長	帯広市人事課長を経て 2025 年４月に帯広市経済部観光交流室長に着任。同年６月に（株）デスティネーション十勝取締役就任。
取締役	山井　太 （株）スノーピーク 代表取締役会長兼社長執行役員	（株）ヤマコウ（現（株）スノーピーク）に入社後、キャンプ用品の開発を手掛け、日本のアウトドアシーンにキャンプブームをもたらす。96 年に同社代表取締役社長に就任。

様式１

<table>
<tr><td>取締役</td><td>梶原　一生</td><td>9 年半のニュージーランド留学を経て（株）丸勝入社。2021 年度には日本青年会議所副会頭就任。十勝ヒルズを立ち上げるなど十勝の観光に寄与。</td></tr>
<tr><td>監査役</td><td>廣田　俊明</td><td>帯広信用金庫　本店長</td></tr>
<tr><td>監査役</td><td>木野村　英明</td><td>木野村英明法律事務所　代表</td></tr>
<tr><td>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</td><td colspan="2">帯広市観光交流課、音更町商工観光課、士幌町産業振興課、上士幌町商工観光課、鹿追町商工観光課、新得町産業課、清水町商工観光課、芽室町商工観光課、中札内村産業課、更別村産業課、大樹町企画商工課、広尾町水産商工観光課、幕別町商工観光課、池田町企画振興課、豊頃町商工観光課、本別町企画振興課、足寄町経済課、陸別町産業振興課、浦幌町商工観光課 以上（すべて、情報提供、観光振興、実施事業支援）</td></tr>
<tr><td>連携する事業者名及び役割</td><td colspan="2">一般社団法人ひがし北海道自然美への道 DMO（プロモーション）
十勝管内のアウトドア観光関係事業者（十勝ネイチャーセンター、北海道ネイチャーセンター、NPO 法人北海道ツーリズム協会、NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター、ほっとえあ、マッシングワークス、十勝アウトドアメイツ、十勝ガイドサービス遊方屋、浮き雲、TAC とかちアドベンチャークラブ、サムライプロデュース、パラグライディング十勝）（コンテンツ開発、旅行事業の実施）
株式会社スノーピーク（物品の販売等）
株式会社 JTB（旅行商品の企画・販売）
十勝観光連盟、域内の各観光協会（情報提供、プロモーション、実施事業支援）
十勝圏二次交通活性化推進協議会
とかち帯広ホテル旅館組合</td></tr>
<tr><td>官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td colspan="2">【該当する登録要件】②
（概要）
十勝管内 19 市町村及び観光協会、十勝観光連盟、アウトドア観光関係事業者、交通事業者、宿泊事業者で構成する協議会「十勝アウトドア観光会議」（以下「協議会」）を 2017 年 7 月に設立し、アウトドアを中心とした観光戦略の合意形成を図る。
2020 年度に地域の二次交通（十勝圏二次交通活性化推進協議会）、宿泊事業者（とかち帯広ホテル旅館組合）も当協議会に加入。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td colspan="2">2017 年度から毎年、課題共有のための十勝管内のアウトドアガイドを対象とした意見交換会を実施。今後、飲食・宿泊・二次交通など各分野の話し合いの場や、これらに関わる地域住民も参加できるフォーラム等を開催し、地元意識の向上を図る。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td colspan="2">【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>2017 年
・自社 WEB サイト立上、運営
2018 年
・自社 SNS 立上、運営
2019 年
・台湾「台北国際観光博覧会」PR 出展
2020 年</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

		・「とかちむら」内に情報発信、レンタル、物販の拠点を設置 ・ビジネスキャンプ、夏のアウトドア観光 PV 作成 ・営業カタログの作成 2021 年 ・「JNTO 地域情報発信事業」Japan’s Local Treasures 掲載（冬の観光） 2022 年 ・「国土交通省 訪日外国人旅行者周遊促進事業（体制強化事業)」での専門人材を活用した自主事業とマネジメント地域の観光 PR ・「JNTO 地域情報発信事業」Japan’s Local Treasures 掲載（トラウトフィッシング） ・「JNTO 観光コンテンツ収集事業」Experiences in Japan 掲載（キャンプステイ） 2023 年 ・「北海道観光振興機構 地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」での十勝のフィッシングコンテンツ PR。（アドベンチャートラベル・ワールドサミット 2023 参加） 2024 年 ・「観光庁　特別体験事業」でツアーを造成し、プロモーションビデオ制作、公開 ・「観光庁　広域観光周遊促進事業」で欧米豪をターゲットとした AT 商品の造成 ・大阪万博にて十勝の AT 商品のプロモーション
	受入環境の整備	2017 年 ・協議会「十勝アウトドア観光会議」の設立 2018 年 ・キャンプギア、テントサウナ等のレンタルギア設備投資 ・「候補 DMO」登録 2019 年 ・WEB サイトリニューアル（レンタル、物販） 2020 年 ・WEB サイト機能の拡充（体験予約決済機能） 2021 年 ・「登録 DMO」登録 ・レンタカー手ぶらキャンププラン造成 ・「観光庁 地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」での外国人専門家によるアドバイスとインバウンド向けモニターツアーの実施、ライブコマースによる情報発信（台湾・札幌・十勝） 2022 年 ・「北海道観光振興機構　地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」での先進地域専門家を招聘したアドベンチャートラベル（AT）セミナーの開催（主催・機運醸成） 2023 年

		・帯広市「十勝地域アドベンチャートラベル受入体制づくり事業」受託。パネルディスカッション、セミナー、ワークショップ、ガイド育成を通した地域の機運醸成 2024 年 ・帯広市「十勝地域アドベンチャートラベル受入体制づくり事業」受託。十勝地域におけるガイドプレーヤーの紹介や既存ガイドをガイド業に関心を持つ者の交流会の開催を通じ、ガイド候補者の発掘に寄与
	観光資源の磨き上げ	2017 年 ・冬のグランピングモニターツアーの実施 2018 年 ・牧場キャンプの企画販売 ・手ぶらキャンプの企画販売 ・アウトドア食品の販売 2019 年 ・自治体ブランディング計画コンサルティング連携 ・ビジネスキャンプの企画販売 ・冬のグランピングモニターツアーの企画販売 2020 年 ・芽室町野遊び SDGｓ資源調査事業での地域コンサルティング（企画・設計・調査等） ・「経産省 TOTTEOKI Project インバウンド需要拡大推進事業」でのインバウンド向けのツアー造成・検討 ・「北海道観光振興機構　地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」でのビジネスキャンプ団体ツアー商品の造成・検討 2021 年 ・北海道アヴァントサウナプランの共同企画販売 ・芽室町野遊び SDGｓ資源調査事業での地域コンサルティング（モニターツアー造成ワークショップ・組織化等） ・「北海道観光振興機構　地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」でのキャンプワーケーション商品の造成・検討 2022 年 ・芽室町野遊び SDGｓ資源調査事業での地域コンサルティング（モニターツアー造成ワークショップ・フォーラム開催等） ・「観光庁　地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」でのコンテナサウナを活用したツアー造成・検討 ・「北海道観光振興機構　地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」でのビジネスキャンプ冬季商品の造成・検討 2023 年 ・「北海道観光振興機構　地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」でのフィッシングに特化したアドベンチャートラベル（AT）の商品の造成（アドベンチャートラベル・ワールドサミット 2023、デイオブアドベンチャー（DOA）コース催行）

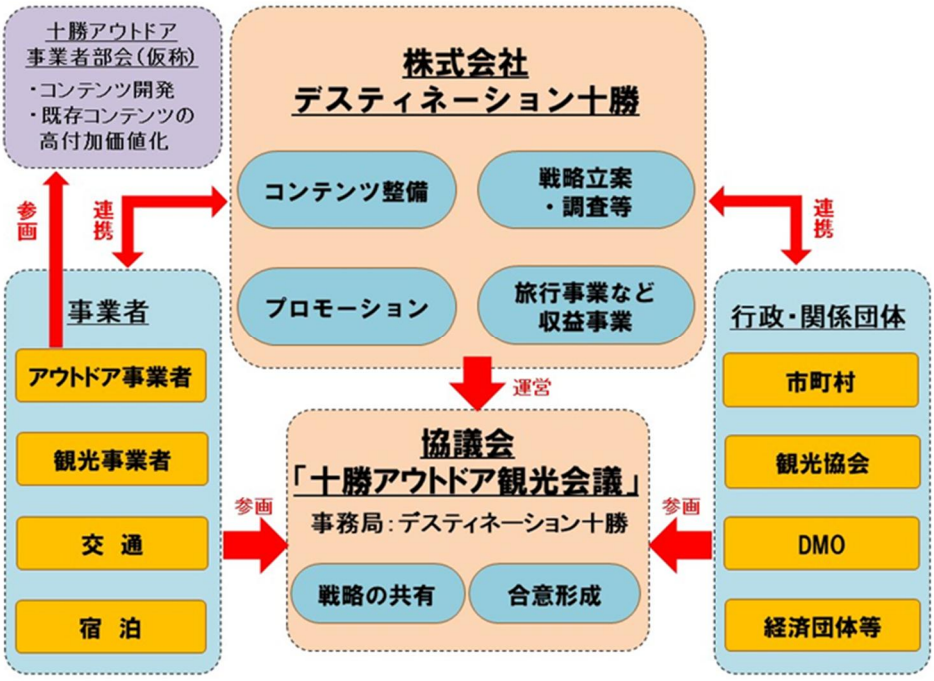
		2024 年 ・「観光庁　特別体験事業」でのインバウンドや国内外富裕層をターゲットとした AT 商品の造成・販売 ・帯広市「十勝地域ガイド人材育成事業」受託。セミナーやガイディングの実践トレーニングを通じたガイド人材を育成。

【定量的な評価】
毎年度、各事業項目について着実に実施できている。地域連携 DMO として行政や地域事業者と連携し、特にＡＴの推進において、観光庁事業を活用し新たなツアー造成を行ったほか、観光振興に必要不可欠なガイドプレーヤーの育成、新規ガイドプレーヤーの業界参入を促進した。地域マネジメントの観点では、十勝アウトドア会議を継続的に実施することで各事業者・団体と地域における課題を共有しつつ、さらなる関係性の構築と強化を行っている。

実施体制
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

【実施体制の概要】
株式会社デスティネーション十勝が策定する事業戦略について、協議会での承認を経た後、事業推進に関係する自治体や事業者、DMO 等と連携して各種事業を推進する。また、コンテンツ開発等を迅速に進めるため、アウトドア関係事業者で組織する「アウトドア事業者部会」を組織する。

【実施体制図】



1. 協議会「十勝アウトドア観光会議」
　株式会社デスティネーション十勝の事業推進にあたり、情報共有や意見交換、調整などを行う場。年２回程度開催する。

　アウトドア観光会議構成団体と役割
　・十勝管内全１９市町村（会長・帯広市経済部観光交流室長）

	・株式会社デスティネーション十勝（事務局） ・十勝管内の各観光協会 ・十勝観光連盟 ・アウトドア観光関係事業者 ・十勝圏二次交通活性化推進協議会 ・とかち帯広ホテル旅館組合 〇アウトドア事業者部会 アウトドア事業者が集まり、既存コンテンツの組み合わせによる高付加価値化や新たなコンテンツ開発などを行う。 ２．ＤＭＯの実施事業 【調査等】 ・十勝地域の観光消費額、アウトドア観光消費額 ・十勝地域の延べ宿泊者数、満足度、リピーター率 ・十勝管内のキャンプ場の利用調査、住民満足度 ・WEB サイトのアクセス状況 ・キャンプ場利用者による調査 ・アウトドア事業者利用者調査 ・ホテル宿泊者調査 【コンテンツ開発】 ・既存コンテンツとの再編集、既存事業者との共同開発等 ・インバウンドや富裕層をターゲットとした高付加価値ツアーの造成 ・事業者と連携した旅行商品やコンテンツ等の開発（熱気球フリーフライト、犬ぞり、わかさぎ釣りなど） 【プロモーション】 ・旅行会社へのセールスコール、旅行博などを通じた BtoB、BtoC プロモーション、WEB やメディアを活用した情報発信 ・十勝のアウトドア情報、アクティビティ、ギアレンタル等にワンストップで対応、WEB 予約・決済のシステムを構築 ・プロモーションビデオ作成（ビジネスキャンプ、夏のアウトドア観光イメージ動画） ・カタログ製作（ビジネスキャンプ、レンタル） 【収益事業】 〇旅行・コンテンツ事業 ・グランピング、キャンプ、ビジネスキャンプ スノーピーク十勝ポロシリキャンプフィールド（帯広市）のほかに、広大な牧場、ガーデンなど特別なロケーションでグランピング、キャンプ拠点を展開 ・企業や団体をターゲットとしたアウトドア研修やキャンプ、アウトドア体験を組み合わせたビジネスキャンププランの販売 ・アヴァントサウナプランの企画販売 〇コンサルティング事業 ・グランピング、キャンプや空間づくりのサポート、イベント受託、キャンプ場再整備等の計画業務受託 ・自治体からの資源調査事業のコンサル 〇人材育成事業 ・外国語対応、アクティビティガイド補助などサポート人材の育成システムの構築

	３．周辺自治体との連携 地域の既存事業とも連動し、広域的な事業推進及び情報発信を行うため、自治体、観光協会、他の DMO 等と連携する。

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

【区域設定の考え方】

日本では数少ない極めて峻険な山脈「日高山脈」と北海道の屋根「大雪山系」のすそ野に広がる十勝地域は、面積が都道府県別で全国７位の岐阜県とほぼ同等で、険しい山々と広大な平野、流域面積が全国６位の大陸的河川「十勝川」、太平洋に面した海岸が共存するアウトドアに適した多様なフィールドを有する。

気温は夏場の最高気温が 30 度を超え、冬場の最低気温は氷点下 30 度近くになる上、年間を通じて晴天率が高いことから、変化に富んだ地形、季節の中で様々なアウトドアアクティビティを楽しむことができる。

また、フィールドとしても手つかずの自然に加えて、農業地帯周辺などのある程度人の手が加わったエリアやガーデン、温泉など、アウトドアレジャーのベテランから初心者まで幅広く受け入れることができる。

旅の目的の大きな要素である「食」についても、地域全体が「フードバレーとかち」として産業振興に取り組んでおり、エリアとして十勝全体を設定した。

【観光客の実態等】

道東自動車道延伸による道央圏との接続、帯広空港の利用者増などにより、2015 年度に初めて十勝管内観光入込客数が 1,000 万人を突破しているものの、8 割以上が宿泊を伴わない通過型観光地であることが課題。一方で外国人観光客数はアジア圏を中心にコロナ禍前は増加傾向で推移し、今後も観光客の増加が期待できるエリアである。

（万人）

2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
1,042	1,032	1,026	706	711	1,028	1,145	1,159

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】
＜観光施設＞
・北海道ガーデン街道（十勝千年の森、真鍋庭園、十勝ヒルズ、紫竹ガーデン、六花の森）
・池田ワイン城　・サホロリゾート　・共働学舎新得農場　・花畑牧場　・柳月スイートピアガーデン

＜自然・文化・スポーツ＞
・植物性モール泉　・大雪山国立公園（然別湖・糠平湖）　・阿寒摩周国立公園（オンネトー）
・日高山脈　・昆布刈石などの十勝海岸　・広大なパッチワーク状の畑が広がる十勝平野
・十勝川水系（フィッシング、テンカラ釣り）　・旧国鉄士幌線アーチ橋梁群　・ナイタイ高原牧場　・銀河の森天文台　・ばんえい競馬　・乗馬　・カヌー　・ラフティング　・サイクリング　・登山　・トレッキング　・パラグライディング　・フィッシング　・熱気球　・キャンプ　・グランピング　・スキー（サホロ、ぬかびら源泉郷、新嵐山、新得山、白銀台、明野ヶ丘）　・スケート　・スノーシュー　・スノーモービル　・ワカサギ釣り　・犬ぞり　・農業体験（農場ステイ・畑散策ツアーなど）　・ジュエリーアイス　・屈足湖（冬季期間にて北海道アヴァント実施）　・ポロシリ自然公園（ビジネスキャンプ）

＜イベント＞
・おびひろ氷まつり　・とかちマルシェ（以上帯広市）　・彩凛華（音更町）　・北海道バルーンフェスティバル（上士幌町）　・しかりべつ湖コタン（鹿追町）　・やまべ放流祭（中札内村）　・全日本ママチャリ耐久レース（更別村）　・広尾毛がに祭り（広尾町）
・池田ワイン祭り（池田町）　・陸別しばれフェスティバル（陸別町）

＜観光資源の活用方法＞
　マネジメント区域である十勝は国立公園に指定された日高山脈に囲まれ、バラエティに富んだアウトドアアクティビティが体験できるフィールドが各地に点在している。また、中心には他地域からの交通拠点であり、宿泊施設も充実したゲートウェイとしての役割を果たす帯広市が存在する。
　帯広市内では、開拓の歴史の中で発展し世界で唯一存在している「ばんえい競馬」が開催されており、夜には街中での飲み歩き（※１）や温泉（※２）の体験も可能である。
　このようにATに必要とされる自然・文化・アクティビティの要素を一体的に体験できることから、今後ATの推進に向けての積極的な活用が必要である

※1 十勝は食料自給率1,300%（カロリーベース）を超える食材の宝庫であり、帯広市中心部には日本有数の飲食店密集エリアが存在する。
※2 帯広市内や十勝川温泉では、全国でも珍しく希少な“モール温泉”に入ることが可能。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】
　十勝中心部の帯広市街や音更町・十勝川温泉地域には大規模ホテル・旅館が約40施設あり7,000人近い人数を収容できる。周縁部にはサホロリゾートのほか、ぬかびら源泉郷や然別湖温泉など100～500名程度を収容できる温泉地や、100名以下の小規模な旅館・ホテルが管内各町村に散在している。
　株式会社デスティネーション十勝が、これまで宿泊することができなかった特別なロケーションでグランピング、キャンプを展開することで、少人数ながらも滞在可能地を増やすことができる。

【利便性：区域までの交通、域内交通】
航空：
帯広空港は羽田線が毎日7往復就航（JAL4往復、ADO3往復）、約１時間半。不定期ながら中国や台湾との国際チャーター便も多数運航実績があり、近年は韓国との国際定期便が就航予定である。
また、帯広は新千歳、旭川、釧路といった各道内主要空港の中間地点でもあり、国内地方空港便も期間限定で運行している。

鉄道：帯広から特急列車が札幌圏・新千歳空港方面は 11 往復/日、釧路方面は 6 往復/日。札幌まで約 2 時間 40 分、新千歳空港まで約 2 時間 15 分（南千歳乗換）、釧路まで約 1 時間半。

バス：
〈都市間バス〉
帯広から札幌 10 往復/日、新千歳空港 5 往復/日、旭川 4 往復/日。札幌、旭川は約 4 時間、新千歳空港は約 2 時間半。
〈ローカルバス〉
帯広市を中心に地元バス会社が各町村への路線網を展開。※インバウンドパス有

道路：
〈一般道〉※帯広起点で記載
札幌へは国道 38・274 号で 208 ㎞、約 4 時間半。旭川（富良野、美瑛経由）は国道 38 号で 174 ㎞、約 3 時間半。旭川（層雲峡経由）は国道 242・273 号で 196 ㎞、約 4 時間。釧路へは国道 38 号で 120 ㎞、約 2 時間半。

〈高速・高規格道路〉
道東自動車道には 7 か所の IC（十勝清水、芽室、音更帯広、池田、本別、足寄、浦幌）からアクセスが可能である。音更帯広 IC から札幌まで約３時間、新千歳空港まで約２時間。また、音更 IC ではスマートインターチェンジが導入され利便性が向上した。
帯広・広尾自動車道は道東道帯広 JCT から分岐。7 か所の IC（芽室帯広、帯広川西、幸福、中札内、更別、忠類、忠類・大樹）がある。

【外国人観光客への対応】
インバウンドに向けて「アウトドアに特化したエリア」としての発信は不足しており、個人事業者の Web サイト等を通じて直接予約されることが多い。ガイドは簡単な外国語で対応しているものの、ツアー参加者の満足度につながる高品質な外国語でのコミュニケーションは十分とは言えない。今後インバウンドが一層増加することが見込まれる中ではガイド数は絶対的に不足している。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
十勝管内の観光入込客数	地域の観光動向を把握する調査と今後の戦略・KPI 策定の基礎データとして活用	十勝総合振興局データを活用して分析・算出
十勝管内の延べ宿泊者数	通過型から滞在型観光地への転換を目指すにあたり、戦略・KPI 策定に際して重要な基礎データとして活用	十勝総合振興局データを活用して分析・算出
管内観光消費額	滞在型観光地及び農業などの地域産業と連携を進めるにあたり進捗を図る重要な判断基準データとして活用	北海道観光産業経済効果調査を活用して分析・算出
管内アウトドア消費額	株式会社デスティネーション十勝が目指すアウトドアの聖地化に向けての重要な判断基準データとして活用	北海道観光産業経済効果調査を活用して分析・算出するほか、各事業者へのヒアリング調査など独自の調査も実施

WEB サイトへのアクセス状況 https://www.destination-tokachi.jp/	十勝のアウトドアに関心を持つ客層の検索状況並びに自社発信情報に対する顧客の反応を調べるためのデータとして活用。分析ツールを導入	グーグルアナリティクスによるアクセス解析を利用
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。インバウンドについては、北海道観光振興機構の観光統計データを活用して分析・算出
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。インバウンドについては、北海道観光振興機構の観光統計データを活用して分析・算出
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	帯広市民に対し毎年行っている市民アンケートを活用して分析・算出

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

2015 年度に初めて十勝管内観光入込客数が 1,000 万人を突破しているものの、8 割以上が宿泊を伴わない通過型観光地であることが課題である。こうした課題に対し、アウトドア観光会議構成員と意見交換、地域事業者や地方公共団体等と協力し、いかに既存コンテンツに魅力ある付加価値を付けるなどの商品の磨き上げや再編集、食や自然環境等を組み合わせた着地型コンテンツの開発と発信も重要であると考える。一方で外国人観光客数はアジア圏を中心にコロナ禍前は増加傾向で推移しており、今後も観光客の増加が期待できるエリアである。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・広大な自然環境と農村景観** **・充実したアウトドアコンテンツ** **・質の高い農畜水産物、食の宝庫** **・世界的にも希少な植物性モール泉** **・冬の極寒、小雪、晴天率の高さ** **・首都圏から直行便の充実** **・全国の約５％にもなる広大な農地** **・人口減少率が道内他地域に比べ少ない** **・自然環境と都市機能のバランス**	**弱み（Weaknesses）** **・二次交通が十分でない** **・定期航空路線が少ない** **・各エリア間の移動に時間がかかる** **・通訳など外国人受け入れ環境整備の遅れ** **・資源を活かしたコンテンツが不十分** **・十勝としての一体的な連携、PR 不足（海外での知名度不足）**

様式１

	機会（Opportunity）	脅威（Threat）
外部環境	･外国人旅行者の増加 ・観光地として安定して高い北海道人気 ・ひがし北海道広域観光周遊ルート制定 ・とかち帯広空港の国際定期便就航など機能拡充、道東自動車道の延伸 ・健康志向や自然志向のサービスや業者が増加 ・日高襟裳国定公園の国立公園化 ・北海道７空港一括運営委託 ・ドラマ撮影による話題性 ・LCC の台頭による旅行のお手軽化	･大規模な自然災害 ・人口の減少と高齢化 ・海外旅行、国内外の観光地との競合 ・道内観光資源のマンネリ化 ・観光人材の不足

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層 首都圏および大都市圏在住の３０～５０代、　ファミリー層、　カップル、　小グループ
○選定の理由、○取組方針 国内においては圧倒的なボリュームゾーンであり、特に首都圏からは航空便が７往復／日とアクセスが良好である。2016 度に十勝アウトドアブランド推進委員会が実施した「十勝アウトドア観光戦略に係る調査業務」及び、2017 年度に株式会社デスティネーション十勝が実施した自社調査事業により、首都圏在住のこの年代層はアウトドアアクティビティとの親和性が高いことや潜在的に十勝を訪れたいという需要があることが浮き彫りとなっている。 この年代にはファミリー層も多く、子供に首都圏ではできない非日常的な体験をさせたいと考える親世代のニーズを叶えるフィールドとしてのポテンシャルは十分に備えている。 同調査によると、十勝未来訪の「ファーストビジター」が多いため、道外者が憧れる北海道像を具現化する映像や写真を用いて視覚に訴える PR 素材を作成し、情報サイト・旅行情報誌・SNS など複数の情報発信ツールを使った訴求を行う。 また、アウトドア初心者や子連れなどでも安心して楽しめるガイド付アクティビティ、家族や仲間で特別な時間を共有するグランピング、キャンプなどを前面に押し出した PR 活動を行う。 新型コロナウイルスの感染拡大により、観光のスタイルも変化し、少人数、アウトドア、安全性の指向が強まると思われる。
○第２ターゲット層 台湾、香港、中国、シンガポールなどアジアから北海道に特別な体験を求めに来る層
○選定の理由、○取組方針 アジア圏でも北海道への訪問回数が多い台湾、香港、中国、シンガポールは FIT 化が進んでおり、景勝地などを周遊する観光から北海道でしかできない体験を求めて訪れる層が増加している。これらの国、地域ではキャンプやサイクリングなど十勝のアクティビティとも親和性が高く、ボリュームも多いためターゲットとして捉える。 台湾のキャンプ人口は 200 万人を超え、国内人口の約 1 割に当たる人がキャンプを楽しんでいる（日本は約 5%）。サイクリングについては国土交通省が 2012 年に実施した台湾サイクル愛好家へのアンケートで「北海道でサイクリングをしてみたい」と回答した割合は８割以上となっている。いずれの国、地域においても、十勝の強みである豊かな自然環境や食などが来道動機の１つとなっている。 また、雪と氷に覆われた北海道への憧れは強く、本格的なスキーではなくても、雪原でのコンテンツで満足する層も多く、十勝ならではのコンテンツ（犬ぞり、熱気球など）を組み合わせて訴求することで、新たなマーケットを開拓することが可能と考えられる。

コロナ禍を経て、雄大な自然空間や安全な環境での特別な体験はさらに求められると思われる。
○第３ターゲット層 インセンティブツアー、企業のミーティングなどビジネスユース
○選定の理由、○取組方針 企業において、社員同士のより建設的な意見交換やクリエイティブな思考形成などを行えるよう、オフィスを中心とした日常のビジネスシーンから離れ、屋外といった非日常空間でのコミュニケーションを行う需要が増えている。特に首都圏からは直行便利用により週末のみの十勝滞在も可能であり、企業を対象としたグランピング、キャンプのビジネスユースプランを設定する。 また、テレワークなど働き方の変化により、首都圏のオフィス業務を減少させている企業需要をさらに取り込む。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	十勝をアウトドアの聖地として世界に発信し、体験価値を高めることで、新たな人の流れを創出する。 ①地域資源を活かした十勝ならではの体験をつくる ②コンテンツ・事業者の組み合わせによる価値創出 ③地域一体の取り組みと情報発信
②コンセプトの考え方	①十勝の自然空間を本格的なアウトドア活動のフィールドとして活かし、心豊かなライフスタイルを求める顧客層に対し、特別に用意したアウトドア体験や基幹産業の農業を生かした食、キャンプ・グランピングといった宿泊を組み合わせた新しいコンテンツを開発し、プレミアムな時間を満喫できる機会を提供することで、「十勝アウトドア」のブランド化を実現する。そのためマーケティング等による、データに基づく戦略をつくり、PDCAサイクルによりブラッシュアップする。 ②アウトドア事業者、宿泊事業者、交通事業者、飲食事業者などとの連携による新たな組み合わせ商品の開発を行うとともに、観光入込客数、消費額の増加により、農業をはじめとする地域産業と連携した新しいビジネスの創生や、人材育成によるサービスの高度化、需要増による新たな雇用創出を促進する。 ③19 市町村で構成する「十勝」全体を一つのフィールドとし、一元的に十勝のフィールドの魅力やコンテンツなどの情報を発信し地域としての価値を高めるとともに、株式会社デスティネーション十勝が中心となりアウトドアに関するワンストップ機能の構築を目指す。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	十勝アウトドア観光会議、アウトドア事業者部会
	地域の自治体、観光協会、アウトドア事業者、交通事業者、宿泊事業者などで構成する協議会「十勝アウトドア観光会議」を開催するほか、「アウトドア事業者部会」を開催し、情報共有やコンテンツ開発、戦略の検討などを行う。年１～2 回程度開催する。

観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	アウトドア体験などのサービスを提供する事業者及び関係事業者の協力のもと、地域が提供する観光サービスに係る満足度や動向などの調査などを行う。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	アウトドアを主体としつつ、関連する宿泊や食など観光全般のワンストップ化を目指す。自治体単独ではなく、「十勝」としてのプロモーションを実施し、ホームページ・ＳＮＳ・紙媒体・自社観光情報発信拠点など複数の媒体を使い分け、ターゲット層に合わせた効率的な訴求を行う。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	145,965	186,907	224,052	234,537	239,227	244,012
		(-)	(6,230)	(27,563)	(24,525)	(25,015)	(25,515)
	実績	183,242	219,659	229,938			
		(5,877)	(26,003)	(24,044)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	1,540	1,861	2,010	2,146	2,254	2,366
		(-)	(38)	(106)	(194)	(204)	(214)
	実績	1,772	1,914	2,044			
		(37)	(102)	(185)			
●来訪者満足度（%）	目標	58	59	51	52	52	53
		(-)	(40)	(38)	(38)	(39)	(39)
	実績	57	50	52			
		(39)	(38)	(38)			
●リピーター率（%）	目標	52	53	55	53	53	54
		(-)	(59)	(55)	(55)	(55)	(56)
	実績	42	54	52			
		(58)	(54)	(54)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

北海道観光産業経済効果調査、北海道創生総合戦略、十勝管内観光入込客数のデータを参考に、平成2016年度より帯広市・鹿追町が地方創生推進交付金を利用して実施している「十勝アウトドアDMO事業」にてKPIとして設定した数値を利用。また、来訪者満足数、リピーター率に関する独自の調査事業を実施し、数値の設定を行った。

・・・

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●住民満足度（%）	目標	75	75	73	71	71	71
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	72	73	71			
		(-)	(-)	(-)			
●WEB サイトのアクセス状況（回）	目標	47,410	72,653	37,483	50,142	55,157	60,672
		(-)	(2,774)	(3,051)	(4,704)	(5,174)	(5,691)
	実績	66,049	37,483	45,584			
		(5,560)	(3,051)	(4276)			
●十勝のアウトドア観光消費額（千円）	目標	371,396	629,721	702,009	781,854	805,310	829,469
		(-)	(108,788)	(292,010)	(297,682)	(306,613)	(315,811)
	実績	611,380	681,562	759,086			
		(105,619)	(283,505)	(289,012)			

括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

住民満足度は、十勝管内の住民の約半数を占めている帯広市民に対して実施している市民アンケートの結果を活用し、WEB サイトのアクセス状況は、自社 WEB サイトのアクセス回数を KPI に設定した。また、十勝のアウトドア観光消費額は、管内のアウトドアによる経済効果を算出するために 2016 年度より帯広市・鹿追町が地方創生推進交付金を活用して実施している「十勝アウトドア DMO 事業」にて KPI として設定した数値を利用。

・・・

・インバウンド
北海道観光産業経済効果調査・十勝管内観光入込客数（うち宿泊客）のデータと合わせて、管内アウトドア事業者にヒアリング調査を行いアウトドア目的での十勝来訪者の割合を算出した。2024 年の目標値については、2023 年実績値に、全体消費額で目標設定した増加率 3%を乗じて算出した。2025 年以降については前年目標値に増加率を乗じて算出した。

・コロナ禍においてキャンプなどアウトドアは新しい生活様式に合致し、アウトドア空間での過ごし方に新たに関心を持った人が増加したが、生活様式がコロナ禍以前の状態に戻ると、そのブームがひと段落した様子を見せている。地域のキャンプ観光事業者からのヒアリングによると、利用者数はコロナ禍以前の水準+α程度になっているとの事だったが、これは以前からのキャンプ愛好者に加え、コロナ禍において新たに獲得したキャンプファンによるものと推測される。一方、旅行形態は団体から少人数旅行の傾向が強まることが予想されることから、体験価値をさらに高め、1 人当たりの消費額を増加させる工夫が重要となり、引き続き魅力的で付加価値の高いアウトドア観光の受入体制づくりが求められる。

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度［実績］	51,118,544（円）	【収益事業収入】32,900,688 円 【補助事業収入】17,217,856 円 【その他】1,000,000 円
2023（Ｒ５）年度［実績］	12,147,465（円）	【収益事業収入】8,467,465 円 【補助事業収入】3,500,000 円
2024（Ｒ６）年度［実績］	34,109,528（円）	【収益事業収入】7,273,341 円 【補助事業収入】26,836,187 円
2025（Ｒ７）年度［予測］	35,815,004（円）	【収益事業収入】7,637,008 円 【補助事業収入】28,177,996 円
2026（Ｒ８）年度［予測］	37,605,755（円）	【収益事業収入】8,018,858 円 【補助事業収入】29,586,896 円
2027（Ｒ９）年度［予測］	39,486,052（円）	【収益事業収入】8,419,801 円 【補助事業収入】31,066,241 円

（２）支出

様式１

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度［実績］	58,440,011（円）	【売上原価】23,206,527 円 【販売管理費】35,233,484 円
2023（Ｒ５） 年度［実績］	16,536,229（円）	【売上原価】3,700,481 円 【販売管理費】12,835,748 円
2024（Ｒ６） 年度［予測］	32,196,104（円）	【売上原価】4,041,754 円 【販売管理費】28,154,350 円
2025（Ｒ７） 年度［予測］	33,805,909（円）	【売上原価】4,243,842 円 【販売管理費】29,562,068 円
2026（Ｒ８） 年度［予測］	35,496,205（円）	【売上原価】4,456,034 円 【販売管理費】31,040,171 円
2027（Ｒ９） 年度［予測］	37,271,015（円）	【売上原価】4,678,835 円 【販売管理費】32,592,179 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

現時点では、帯広市をはじめとする自治体からの受託事業を基盤としつつ、アドベンチャートラベルを軸とした観光商品の造成・販売等の収益事業を拡大することで、自走型地域連携 DMO としての体制づくりに努めている。今後の見通しとしては、富裕層・インバウンドをターゲットとした体験型旅行商品の造成・販売や、スノーピーク等の企業との連携を軸に共同企画・販売にとる収益事業の拡大を図る。また、帯広市と引き続き連携し、各アクティビティガイドをはじめとしたスポットガイド、またツアー全体を構成し同行するスルーガイドの人材育成事業・受入整備事業等、地域課題に即した受託事業の展開により財源の安定化を図る。これらの取り組みを通じて、補助金等に依存しない持続可能な経営体制の構築を目指し、DMO として独立性を高めていく方針である。さらに各自治体で導入が広まっている宿泊税を当該マネジメント区域でも一部導入予定であるため、それらを有効に活用し、安定的な財源の確保に役立てていく予定である。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

北海道、帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町は、株式会社デスティネーション十勝を当該都道府県及び市町村における登録ＤＭＯ（地域連携ＤＭＯ）とし、引き続き連携等を行っていく。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

エリアが重複する十勝川温泉旅館協同組合（音更町）、株式会社 karch（上士幌町）、ひがし北海道自然美への道 DMO（釧路市）とは、具体的な役割分担や公的な会議等は行っていないが、商品造成や事業者間での連携等については適宜連絡、協議を行う方針。
また、その他地域の DMO とは、今後の連携や役割分担等については適宜協議等を行う予定。

【区域が重複する背景】

当ＤＭＯは、十勝１９市町村での地域連携ＤＭＯおよび道東に属する DMO として設立されたため重複している。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

当ＤＭＯは、十勝エリアにおいてアウトドア観光を軸に事業展開、ブランディング、プロモーション、商品や拠点の開発、編集等により観光地域経営を行っているため、区域内地域ＤＭＯとの事業内容や役割について重複していても問題はないと考える。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

単独地域だけではなく、複数地域での商品造成や事業連携等が必要な場合は、お互いの組織が連携できるよう検討したい。

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	吉田萌葵
担当部署名（役職）	株式会社デスティネーション十勝
郵便番号	080-0047
所在地	帯広市西十七北二丁目５６－１６
電話番号（直通）	0155-66-6191
ＦＡＸ番号	0155-66-6192
Ｅ－ｍａｉｌ	info@tokachi-dmo.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	帯広市
担当者氏名	尾籠　辰哉
担当部署名（役職）	経済部観光交流室観光交流課（主任補）
郵便番号	〒080-8670
所在地	北海道帯広市西 5 条南 7 丁目 1 番地

電話番号（直通）	0155-65-4169
ＦＡＸ番号	0155-23-0172
Ｅ－ｍａｉｌ	tourism@city.obihiro.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	音更町
担当者氏名	吉村　慶太
担当部署名（役職）	経済部商工観光課（係長）
郵便番号	〒080-0198
所在地	河東郡音更町元町 2
電話番号（直通）	0155-42-2111（代）
ＦＡＸ番号	0155-42-2969
Ｅ－ｍａｉｌ	shoukoukankouka@town.otofuke.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	士幌町
担当者氏名	澤崎　聖美
担当部署名（役職）	産業振興課（主査）
郵便番号	〒080-1200
所在地	河東郡士幌町字士幌 225 番地
電話番号（直通）	01564-5-5213
ＦＡＸ番号	01564-9-5812
Ｅ－ｍａｉｌ	sansingroup1@shihoro.jp

都道府県･市町村名	上士幌町
担当者氏名	田村　景勝
担当部署名（役職）	商工観光課（主任補）
郵便番号	〒080-1492
所在地	河東郡上士幌町字上士幌東 3 線 238 番地
電話番号（直通）	01564-2-2111
ＦＡＸ番号	01564-2-4637
Ｅ－ｍａｉｌ	syoukoukankouka@town.kamishihoro.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	鹿追町
担当者氏名	常清　拓也
担当部署名（役職）	商工観光課（係長）
郵便番号	〒081-0292
所在地	河東郡鹿追町東町 1 丁目 15-1
電話番号（直通）	0156-66-4034

ＦＡＸ番号	0156-66-4034
Ｅ－ｍａｉｌ	shoukou@town.shikaoi.lg.jp

都道府県･市町村名	新得町
担当者氏名	本田　浩平
担当部署名（役職）	産業課観光振興係（係長）
郵便番号	〒081-8501
所在地	上川郡新得町３条南４丁目 26 番地
電話番号（直通）	0156-64-0522
ＦＡＸ番号	0156-64-6464
Ｅ－ｍａｉｌ	kankoushinkou@town.shintoku.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	清水町
担当者氏名	青砥　悠賀
担当部署名（役職）	商工観光課
郵便番号	〒089-0192
所在地	上川郡清水町南４条２丁目２番地
電話番号（直通）	0156-62-1156
ＦＡＸ番号	0156-62-5116
Ｅ－ｍａｉｌ	syoko@town.shimizu.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	芽室町
担当者氏名	渡辺　浩二
担当部署名（役職）	魅力創造課（課長補佐兼係長）
郵便番号	〒082-8651
所在地	河西郡芽室町東２条２丁目 14
電話番号（直通）	0155-62-9736
ＦＡＸ番号	0155-62-9920
Ｅ－ｍａｉｌ	s-kankou@memuro.net

都道府県･市町村名	中札内村
担当者氏名	柳澤　一充
担当部署名（役職）	産業課産業グループ（課長補佐）
郵便番号	〒089-1392
所在地	河西郡中札内村大通南２丁目３
電話番号（直通）	0155-67-2495
ＦＡＸ番号	0155-67-2156
Ｅ－ｍａｉｌ	s-sangyo@vill.nakasatsunai.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	大樹町
担当者氏名	猪狩　浩介
担当部署名（役職）	企画商工課商工観光係（係長）
郵便番号	〒089-2195
所在地	北海道広尾郡大樹町東本通 33
電話番号（直通）	01558-6-2114(代)
ＦＡＸ番号	01558-6-2495
Ｅ－ｍａｉｌ	shoko_kanko-kakari@town.taiki.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	広尾町
担当者氏名	室谷　直宏
担当部署名（役職）	水産商工観光課（課長）
郵便番号	〒089-2692
所在地	広尾郡広尾町西 4 条 7 丁目 1
電話番号（直通）	01558-2-2111
ＦＡＸ番号	01558-2-4933
Ｅ－ｍａｉｌ	s-shokokanko@town.hiroo.lg.jp

都道府県･市町村名	幕別町
担当者氏名	松田　裕美
担当部署名（役職）	経済部商工観光課（係長）
郵便番号	〒089-0692
所在地	中川郡幕別町本町 130-1
電話番号（直通）	0155-54-6606
ＦＡＸ番号	015-54-5564
Ｅ－ｍａｉｌ	kankokakari@town.makubetsu.lg.jp

都道府県･市町村名	池田町
担当者氏名	前原　航大
担当部署名（役職）	地域振興課商工観光係（主任）
郵便番号	〒083-8650
所在地	中川郡池田町字西 1 条 7 丁目 11 番地
電話番号（直通）	015-572-3111(代)
ＦＡＸ番号	015-572-5560
Ｅ－ｍａｉｌ	syoukou@town.hokkaido-ikeda.lg.jp

都道府県･市町村名	豊頃町

様式１

担当者氏名	松崎　樹
担当部署名（役職）	企画課商工観光係
郵便番号	〒089-5392
所在地	中川郡豊頃町茂岩本町 125 番地
電話番号（直通）	015 - 574 - 2216
ＦＡＸ番号	015-574-2389
Ｅ－ｍａｉｌ	kanko@toyokoro.jp

都道府県･市町村名	足寄町
担当者氏名	林　俊英
担当部署名（役職）	経済課商工観光振興室（室長）
郵便番号	〒089-4311
所在地	足寄足寄町北一条４丁目 48-1
電話番号（直通）	0156-25-2141（代）
ＦＡＸ番号	0156-25-2141
Ｅ－ｍａｉｌ	syoukou@town.ashoro.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	本別町
担当者氏名	中野　慎吾
担当部署名（役職）	未来創造課（主事）
郵便番号	〒089-3392
所在地	中川郡本別町北 2 丁目 4-1
電話番号（直通）	0156-22-8121
ＦＡＸ番号	0156-22-3237
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@town.honbetsu.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	陸別町
担当者氏名	清水　遊
担当部署名（役職）	産業振興課（主任主査）
郵便番号	〒089-4311
所在地	北海道足寄郡陸別町字陸別東 1 条 3 丁目 1 番地
電話番号（直通）	0156-27-2141
ＦＡＸ番号	0156-27-2798
Ｅ－ｍａｉｌ	syoukou@rikubetsu.jp

都道府県･市町村名	浦幌町
担当者氏名	渡部　裕貴
担当部署名（役職）	産業課商工観光係（係長）

様式１

郵便番号	〒089-5692
所在地	十勝郡浦幌町字桜町 15 番地 6
電話番号（直通）	015-576-2181
ＦＡＸ番号	015-576-2519
Ｅ－ｍａｉｌ	sangyou@urahoro.jp

（候補／登録）【登録区分】地域連携DMO（株式会社デスティネーション十勝）

様式２

記入日：　令和7年7月31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
北海道帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町
【設立時期】 2017年4月5日
【設立経緯】
区域に観光協会やDMOがあるが、アウトドアに特化した地域連携DMOとして設立。
【代表者】 林　克彦
【マーケティング責任者（CMO）】 荒井　駆
【財務責任者（CFO）】 藤芳　雅人
【職員数】 7人（常勤1人（正職員0人・出向等1人）、非常勤6人）
【主な収入】
収益事業　7．27百万円、補助事業収入　26．84百万円（2024年度決算）
【総支出】
売上原価　3．72百万円、販売管理費　8．58百万円（2024年度決算）
【連携する主な事業者】
株式会社スノーピーク、地域の交通・宿泊・観光・アウトドア事業者、
地域の一次産業事業者　ほか

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	145,965（–）	186,907（6,230）	224,052（27,563）	234,537（24,525）	239,227（25,015）	244,012（244,012）
	実績	183,242（5,877）	219,659（26,003）	229,938（24,044）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	1,540（–）	1,861（38）	2,010（106）	2,146（194）	2,254（204）	2,366（214）
	実績	1,772（37）	1,914（102）	2,044（185）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	58（—）	59（40）	51（38）	52（38）	52（39）	53（39）
	実績	57（39）	50（38）	52（38）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	52（—）	53（59）	55（55）	53（55）	53（55）	54（56）
	実績	42（58）	54（54）	52（54）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
1．大都市圏在住の30～50代
2．アジアからのインバウンド層
3．ビジネスユース層
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
アウトドアアクティビティ、自然、食等の地域の強みを活かした商品造成や磨き上げ、ターゲットに沿った情報発信を行い、誘客に繋げる
【観光地域づくりのコンセプト】
十勝をアウトドアの聖地として世界に発信し、体験価値を高めることで、新たな人の流れを創出する。

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・観光庁「特別体験事業」でインバウンドや国内富裕層をターゲットとしたAT商品の造成・販売
・観光庁「広域観光周遊促進事業」で欧米豪をターゲットとしたAT商品の造成・販売
【情報発信・プロモーション】
・「観光庁 特別体験事業」を実施した様子をもとにプロモーションビデオ制作・公開
・大阪万博でAT商品のPR
【受入環境整備】
・アドベンチャートラベルに関する地域の機運醸成
・帯広市「十勝地域アドベンチャートラベル受入体制づくり事業」でガイド人材の育成